

納品書

株式会社 松 田

栃木県佐野市栄町3-1
TEL 0283(23)2513(代)
FAX 0283(23)2518

飯田昌弘

様

お届け先

下記の通り納品致します。

日付	伝票番号	お客様コード	担当	取引	発行者
18/04/01	45041	019980	社長	売掛	561

区分	商 品 名	数 量	単 位	単 価	金 額	摘 要
売上	市議会報告書(A4. 1C×1C)	3,500	枚		38,426	
備考	飯田昌弘様	対象額	38,426	消費税	3,074	合計
					41,500	

領 収 証

30-00352

飯田昌弘 殿

2018年4月1日

金 額										円
										41,500

100万円以下	200円
200万円	400円
300万円	600円
500万円	1,000円
1,000万円	2,000円
2,000万円	4,000円
3,000万円	6,000円
5,000万円	1万円
1億円	2万円
2億円	4万円
3億円	6万円
5億円	10万円
10億円	15万円
10億円超	20万円

上記金額正に領収致しました
但し

内消費税

内 訳		金額
現 金		41,500
小切手	通	
手形	通	
手形	期日	/ ~ /
銀行	振込	
相 殺		
値 引		

株式会社 松田
本社 栃木県佐野市栄町3-1
TEL 0283(23)2513(代)



取扱者印

(注) 社印・取扱者印なきもの及、金額訂正は無効
金額の頭部には¥を記入のこと。

納品書

株式会社 松田

栃木県佐野市栄町3-1

TEL 0283(23)2513(代)

FAX 0283(23)2518

飯田昌弘様

お届先

下記の通り納品致します。

日付	伝票番号	お客様コード	担当	取引	発行者
18/06/19	45834	019980	社長	売掛	561

区分	商 品 名	数 量	単 位	単 価	金 額	摘 要
売上	市議会報告書(A4. 1C×1C)	3,500	枚		38,426	
備考	飯田昌弘様					
		38,426		3,074	41,500	

領 収 証

30-00376

飯田昌弘 殿

2018年6月21日

金額						円
	4	1	5	0	0	

100万円以下	200円
200万円	400円
300万円	600円
500万円	1,000円
1,000万円	2,000円
2,000万円	4,000円
3,000万円	6,000円
5,000万円	1万円
1万円	2万円
2万円	4万円
3万円	6万円
5万円	10万円
10万円	15万円
10万円	20万円

上記金額正に領収致しました

但し印刷について

内消費税 3,074-

内 訳		金額
現金		41,500
小切手	通	
手形	通	
手形	期日	/ ~ /
銀行	振込	
相 殺		
値 引		

株式会社 松田
 本社 栃木県佐野市栄町3-1
 TEL 0283(23)2513(代)

取扱者印

(注) 社印・取扱者印なきもの及、金額訂正は無効
金額の頭部には¥を記入のこと。

納品書

- 1 -

株式会社 松 田

栃木県佐野市栄町3-1
TEL 0283(23)2513(代)
FAX 0283(23)2518

飯田昌弘 様

お届け先

下記の通り納品致します。

日 付	伝票番号	お客様コード	担 当	取引	発 行 者
18/12/22	47347	019980	社長	売掛	561

区分	商 品 名	数 量	単 位	単 価	金 額	摘 要
売上	市議会報告書(A4. 1C×1C)	3,500	部		38,426	
備考	飯田昌弘様					
		38,426		3,074	41,500	

領 収 証

3 No. 00129

2018年12月22日

飯田昌弘 殿

金 額						円
					41,500	

100万円以下	200円
200万円	400円
300万円	600円
500万円	1,000円
1,000万円	2,000円
2,000万円	4,000円
3,000万円	6,000円
5,000万円	1万円
1万円	2万円
2万円	4万円
3万円	6万円
5万円	10万円
10万円	15万円
10万円	20万円

上記金額正に領収致しました
但し印別にて
内消費税 3,074 -

		内 訳	
現 金			41,500
小切手	通		
手 形	通		
手 形	期 日	/ ~ /	
銀 行	振 込		
相 殺			
値 引			

(注) 社印・取扱者印なきもの及、金額訂正は無効
金額の頭部には¥を記入のこと。

総合印刷機材
株式会社 松 田
本社 栃木県佐野市栄町3-1
TEL 0283(23)2513(代)

取扱者印

領 収 書

平成30年 9月 7日

飯田 昌弘 議員

金 額
(消費税込)

1,592円

第3回佐野市議会議会報告会費用分担金として、上記の金額を領収しました。
(平成30年7月5日、9日、11日報告会開催)

佐野市議会報告会運営会委員長

菅原 達



第 5 2 号
2 0 1 8 年
4 月 発 行

いいだ昌弘 市議会報告

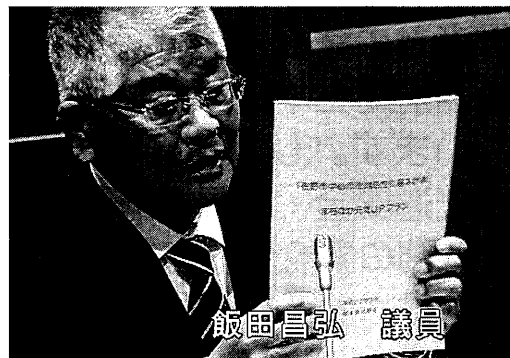
発行者 蒼生会
飯田昌弘
佐野市堀米町81-7
TEL・FAX 0283(22)8523
携 帯 090-3067-7963
e-mail m-iida@sctv.jp

春風が肌に心地よい季節になりましたが、お変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平成30年第1回市議会定例会におきまして、平成30年度予算、一般会計459億7千万円、特別会計290億9200万円、水道事業会計収入4263万2千円、支出36億2775万5千円が可決。

第2次総合計画の推進テーマ「定住促進」に向けて編成された予算は将来を見据えた本市の都市構造の骨格を定め、持続可能な行政サービス構築を目指すものです。将来に希望の持てる豊かな暮らしを実現し、定住促進を実現するため、実現可能なまちづくりの骨格形成を図って参りたいと思います。一般質問で以下の質問をしましたので、ご報告いたします。

(建設常任委員会委員、都市計画審議会委員)



平成30年第1回佐野市議会定例会 (飯田昌弘一般質問)

一. 快適により安全で安心して暮らせるまちづくりについて

(1) 中心市街地の整備状況について。

蒼生会は行政視察に沖縄市へ行き、中心市街地活性化基本計画の3割しかない成功例の1つをつぶさに研修してきました。

居住ストックの確保はもとより、市民ニーズに基づく幅広い視点でのまちづくりが重要であると考え、多面的な都市機能を充実させることでまち全体の魅力を向上させ、住みたい・住み続けたいと思える中心市街地を実現していくことを目標に作成された中心市街地基本計画で活性化を成功させました。

基本方針は「住む人目線での良好な生活空間の創出」であります。

Q① 沖縄市の例をどのように捉え佐野市に生かしていくかお聞きします。

A 藤本真澄都市建設部長答弁 沖縄市の基本計画掲載事業のうち、民間主体事業が約半分実施中であり、様々な方が積極的にまちづくりに参加し、官民の連携により指標が達成できている先進的な事例であると考えています。

本市におきましても、次期中心市街地活性化基本計画を策定する際には、沖縄市や他市の成功事例を参考に、官民協働で魅力ある中心市街地の創生に努めたいと考えております。

Q② コンパクトシティの具体的な取り組み内容についてお伺いいたします。

A 加藤栄作総合政策部長答弁 総合計画の基本構想や国土利用計画で都市核と位置づけされた、佐野駅、田沼駅、葛生駅周辺と佐野新都市周辺へ、諸機能の集約を図り、生活拠点や中山間地域は、生活に密着した諸機能の集約による小さな拠点づくりを通じ、持続可能な地域づくりを進め、多様なネットワークで結ぶ都市構造の構築を図ってまいりたいと考えております。

(2) 市道1級2号線久保町踏切の拡幅について

Q①平成27年9月議会で久保町踏切の拡幅を要望しました。その後の経過についてお伺いします。

A藤本真澄都市建設部長答弁 多くの時間と費用を要することで具体的な計画に至っておらず、鉄道事業者との詳細協議に進んでいないため、第2次総合計画前期基本計画に位置づけされていない状況でございます。



しかしながら、危険な通学路の解消としまして、第2次総合計画に「交通安全・防犯・消費者対策の推進」の基本方針として「通学路をはじめとする道路の安全確保のため、危険箇所の点検を実施するとともに、歩道整備等の事業を推進する」と位置づけております。

Q②危険な通学路と指摘されいまだに解決していない通学路についてどのように解決していくのかお伺いいたします。

A未解決の危険箇所は、道路拡幅による歩車道分離、信号機新設、交差点改良など対策の理想像はあるものの、費用や期間を要するため迅速かつ根本的な措置を講ずることができず、対策に苦慮しています。

第2次総合計画前期基本計画で、「市道通学路整備事業」を新規実施事業として立ち上げたところでございます。本市で進めるインフラ整備との調整を図りながら優先順位を定めた計画的な予算確保を行い、事業実施いたします。

二. 豊かな心を育み、学び合うまちづくり

(1) 全国学力・学習状況調査の結果について

地域の学力は地域全体の総合力でも重要な地位を占め、企業誘致や定住促進の重要な関心事であり評価のポイントともいわれています。

Q①平成17年3月の調査結果以来、全国平均を下回っていた児童の学力が平成29年度調査結果で全国平均を上回った件について、関係各位のたゆまぬ工夫と努力に心から感謝と敬意を表します。どのような結果か、小中教科ごとに説明願います。

A岩上日出男教育長答弁 小学6年生は、国語A、国語B、算数Aが全国平均を上回り、算数Bが同程度。中学3年生は、国語A、国語Bが全国とほぼ同程度、数学A、数学Bが下回る結果でしたが、昨年度に比べ、その差は確実に縮めることができ、全体としては底上げが図られてきているものと捉えております。しかし、依然として課題も残っていると認識しております。

Q②各学校の努力と教育委員会の取り組み今後の施策についてお聞きします。

A学力向上のための各学校の努力ですが、「一校一改革・一挑戦」の下、各学校で様々な取り組みを行っています。教育委員会では、指導主事や学校教育指導員、学校適正配置推進員が学校を訪問し、継続的に学力向上に向けての支援を行っています。また、学習指導に関する研修会を開催するなどの取り組みも行ってまいります。

来年度から英語教育の充実にも取り組んでまいります。

紫陽花が色鮮やかに咲く季節になりましたが、お変わりなくご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平成30年第2回市議会定例会が開催され、17人の議員が市政に対する一般質問を行いました。第2次総合計画の推進テーマ「定住促進」に向け、みなさまが将来に希望の持てる豊かな暮らしを実現できるよう努力してまいります。

(厚生常任委員会委員、都市計画審議会委員)



平成 30 年第 2 回佐野市議会定例会 (飯田昌弘一般質問)

一. 豊かな心を育み、学び合うまちづくりについて

1. 平成29年度児童生徒の体力・運動能力調査結果について

Q① 結果の県との比較と本市の優れている点、劣っている点をお聞きします。

A① **岩上日出夫教育長** 答弁 小学校5年生の50m走で男子は、県より0.1秒速く、女子は0.2秒遅いなど県との差は小さく同程度であると言えます。

優れている点は、20mシャトルランの記録が伸び、持久力であると認識しています。劣る点は、立ち幅跳びや反復横跳びの記録から瞬発力や俊敏性です。

Q② 今まで、体力・運動能力の向上に教育委員会、各学校ではどのような取り組みをされてきたのかお伺いいたします。

A② 各小中学校では、体力、運動能力の現状や課題を把握した上で児童生徒が運動に意欲的に取り組んだり、親しんだりできる工夫をしております。

具体例では、複数の運動を組み合わせたサーキットトレーニングを取り入れたり、児童生徒自身が運動能力向上を実感できるように、検定方式を取り入れたりすることが挙げられます。

教育委員会では、体力テストの分析結果を通知し、学校訪問時に、体育の授業の中で運動の機会を十分確保することや運動に親しむ気持ちを児童生徒に育むことをお願いしております。昨年度は、運動能力向上を図る県事業に申込み、小学校の体育を研究する先生と連携して大学の教授を招いて、研修を開催し、学んだ内容を他の先生方に広める取り組みを行いました。

Q③ 結果を受けて、今後の具体的な取り組みをお伺いいたします。

A③ 昨年度は、向上を図る実践が認められ**県から3校が表彰**を受けました。

体力、運動能力向上の研修会を予定しており、模範的な取り組みを紹介したいと考えています。小中学校連携を目的に、小学生が中学校の部活動に参加する取り組みがおこなわれ、運動に親しむ有効な方法と捉えております。

2. 児童生徒の熱中症対策について

Q 熱中症指数計の導入実態と対応についてお伺いいたします。

A 8割の小中学校で導入しております。

熱中症指数計の導入の必要性とその購入、効果的な活用等について、各学校に呼びかけてまいりたいと考えております。

二. スポーツ立市を掲げる佐野市のかかわりについて

Q① スポーツ庁がまとめた平成28年度体力・運動能力調査結果から運動部やスポーツクラブへの所属の有無で、新体力テストの合計点に差があることがわかりました。年齢別の合計点の差について、お伺いいたします。

A① **松本 仁観光スポーツ部長** 答弁 本市では、小学校5年生と中学校2年生で実施しています。結果を全国、県、市で比較しますと、小学男子、全国53.9点 県53.0点 市52.6点で全国より1.3ポイント低く、小学女子、全国55.5点、県55.4点、市53.4点で全国より2.1ポイント低い結果がでています。中学男子は、全国42.0点、県41.4点、市40.8点で全国より1.2ポイント低く、中学女子は、全国49.4点、県49.4点、市48.1点で全国より1.3ポイント低い結果が出ています。小中学生男女とも、若干全国平均を下回っている状況です。



飯田昌弘 議員

成人と高齢者については、比較検討できるデータがございません。

市民の体力維持向上を図るうえで、成人、高齢者の基礎データを収集分析することは重要でありますので、今後、調査方法等について検討してまいります。

Q② スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブへどのような支援をしているかお伺いいたします。

A② スポーツ少年団へは、本部運営補助金30万円、体育施設の使用料の二分の一を減額。総合型地域スポーツクラブは初年度25万円補助、次年度活動支援金10万円補助、体育施設の優先的貸出や施設使用料の全額免除をしています。

Q③ 両団体はスポーツを通して青少年の健全育成を掲げています。施設の使用料に差が出ています。同様の支援にすべきと考えますがいかがでしょうか。

A③ 支援の在り方について、関係団体と十分協議し検討してまいります。

Q④ スポーツ立市を宣言する佐野市として、子どもたちのスポーツを通じて健全育成していく環境整備をどのように実現していくのかお伺いいたします。

A④ 環境整備として大切なことは、子どもが安心してスポーツに打ち込める場を確保することであり、受け皿となるスポーツ団体は、しっかりとした指導者を確保し、持続的に良好な運営を行える組織体制を整えることが必要です。そこでは、スポーツ団体を中心とした周囲の人たちの協力は欠かせないものだと考えます。行政の力だけでなく、スポーツ団体、地域の人たちや事業者等との連携のもとで、より良い方策を検討する必要があると考えます。

Q⑤ 子どもの街を宣言し、スポーツ立市を掲げる佐野市として、生涯スポーツの基礎作りとして、子どもたちの体力、運動能力の向上にどのように取り組まれるのかお伺いいたします。

A⑤ 学校教育現場での体力・運動能力の向上の取り組みについて支援すると共に、スポーツ活動の経験のない子どもに対し、スポーツを行うきっかけ作りとして、楽しく参加しやすいスポーツイベント等を企画し、開催してまいります。

A⑤ **教育長** 答弁 学校教育では児童生徒の学力、体力向上は、学校教育で実施すべき一丁目一番地でございます。何よりも児童生徒自身が学力、体力向上を願っています。しかしながら、全国を上回るところまで行っていないのも事実でございます。スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブと連携を図り、地域のスポーツ教室に参加を呼びかけスポーツの活性化を図り、児童生徒の体力、運動能力向上に努めてまいりたいと考えております。

第 5 4 号
2 0 1 8 年
1 0 月 発 行

い い だ 昌 弘 市 議 会 報 告

発 行 者 蒼 生 会
飯 田 昌 弘

佐 野 市 堀 米 町 8 1 - 7
TEL・FAX 0283(22)8523
携 帯 090-3067-7963
e-mail m-iida@sctv.jp

記録的な猛暑の夏も終わり、爽やかな秋風が心地よい季節となりましたが、お変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

平成30年第3回市議会定例会が開催され、平成29年度決算審査、平成30年度補正予算審査が行われました。

私は、子どもを取り巻く環境や市民の健康対策について質問致しました。

佐野市の宝である子どもたちの環境を整備し、佐野を愛する心を育て、その気持ちを一生持ち続けるような人になるよう皆さんと一緒に努力していきたいと考えています。

いつまでも健康であり続け、心豊かに生きることは、すべての市民の願いであります。健康寿命、平均寿命を延ばすための努力を皆様と一緒に取り組んでまいります。

(厚生常任委員会委員、都市計画審議会委員)



平成 30 年第 3 回佐野市議会定例会 (飯田昌弘一般質問)

一. 不登校と少人数学級編成について

Q1 不登校児童生徒の平成27年度から3年間の人数をお伺いします。

A 岩上日出夫教育長答弁 平成27年度152人、28年度129人、29年度152人となっております。

Q2 思春期を迎える5・6年生だけが現在40人学級編制になっています。どのようにお考えでしょうか。

A 小学校5・6年生の40人学級編制は、4年生までの35人学級編制から大きな環境の変化となり、不適應を起こしやすくなる要因の一つと考えています。

Q3 市全体として少人数学級編成についてどうお考えですか。

A 学校全体としましても、小学校5・6年生の少人数学級は効果があるものと期待しているところでございます。

35人超の学級では、机間指導もしにくくなり、ロッカーや作品展示のスペースも少なくなり、教育環境も手狭になります。

教職員も、担任する児童数が多くなれば、テストの採点や成績処理、教育相談等、事務処理量が多くなり、児童一人一人と関わる時間が少なくなることは、否めないことと考えます。

Q4 県内初の大規模施設一体型のおそ野学園義務教育学校が平成32年開校します。小学校7校、中学校1校。小学校の多くは複式学級を持つ小規模校です。開校時の見込み人数と学級編制は、6年生が78人で2学級編制、1学級39人です。他の学年は3学級編制となる予定です。小規模少人数学級からいきなり大人数の学級となり、大

きな変化に対応しなければなりません。一人一人きめ細やかな対応をするためには1学級増やすことが最善の策と考えますが当局の考えをお伺いいたします。

A あそ野学園義務教育学校は、7つの小学校が統合し、学校規模、通学距離等大きく教育環境が変化いたします。

そこで、新しい義務教育学校として、学校運営が円滑に行われ、児童生徒が新しい環境に早く慣れるためにも、様々な面で配慮や支援が必要であると、考えております。

しかし、市内の他の小学校でも、1つの教室で40人程の児童が学習を行っている学級もあり、教育の公平性を考えますと、実施する場合は、あそ野学園義務教育学校だけの実施でなく、該当するすべての学校で実施したいと考えておりますので、特例を設けることは考えておりません。

Q5 県での対応が難しい場合、市独自の対応を取る必要があると考えますがいかがでしょうか。

A 市独自での対応は、人材確保や人件費確保等を考えますと、非常に難しい状況にあると思われれます。県での対応が難しい場合、今後統合される学校に配置されておりますさわやか教育指導員や、さわやか健康指導員、特別支援学級支援員をあそ野学園義務教育学校へ配置換えすることなどについて、検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

二. 健康増進策について

Q 佐野市で考える特定健康診査の受診率向上策とがん検診の受診率向上策で健康寿命を延伸し、県の平均値を上回る結果をどのように導き出すのかお伺いいたします。

A 高松敏行健康医療部長答弁 受診率向上策としまして、健診受診のPRの強化を進め、町会長、民生委員児童委員、シニアクラブ、健康サポートさの、佐野市医師会等に対し、健診の受診勧奨のお願いをし、他に、医療機関へのポスターの掲示、健康づくり講演会や教室等でのチラシの配布により、健診受診のPRをしています。

また、受診されていない方へ、はがきによる個別通知で受診勧奨を行い、未受診者対策の強化や健診案内を行う「健診スタートブック」の内容改善も必要でございます。

なお、がん検診の受診率向上につきましても、特定健康診査と同様の対策を実施し、がん検診受診率の向上を進めていく予定です。

議員のご質問の各種健診の自己負担金の無償化や軽減につきましても、健診を受診しやすい環境の整備となるものですので、受診率向上のため、研究してまいりたいと考えております。

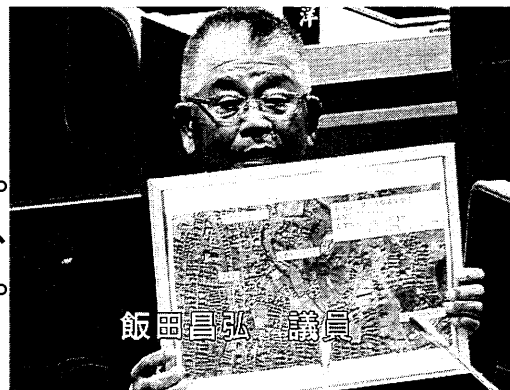
健康寿命を延伸するためには、日頃から、こころの健康、生きがいのある生活を送るなど、さまざまな要因がございます。関係機関と連携し「健康21プラン」の推進を図っていくことも健康寿命の延伸のための方策と認識しております。以上でございます。



皆様、明けましておめでとうございます。

昨年は記録的な猛暑、大規模地震の発生、台風の襲来、大雨等自然災害が多発しました。今年が穏やかなより良き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

平成30年第4回佐野市市議会定例会が開催され、17名の議員が市政に対する一般質問を行いました。少しでも良い環境を次世代に継承できるよう全力で取り組みます。



(厚生常任委員会委員、都市計画審議会委員)

平成 30 年第 4 回佐野市議会定例会（飯田昌弘一般質問）

1. インフラ整備としての道路・河川と通学路の安全対策について

①県道堀米停車場線・都市計画道路3・5・212奈良淵堀米線について

Q 議員になり安全な通学路として要望し続けてきた市街地では例を見ない両側3.5mの自転車歩行者道を持つ道路の実現が目の前に来ています。残りの未整備区間の用地取得状況と工事予定をお伺いいたします。

A 青木正典都市建設部長 用地の取得は、全ての区間で完了しました。物件の移転後、速やかに整備を行い、一日も早い完成に向け努めて参ります。

②県道唐沢山公園線の渋滞対策について

Q 東の産業道路交差点から天理教西交差点までの区間で朝夕の慢性的な渋滞が発生しています。解消に向けてどのような対応をするかお伺いいたします。

A 県道桐生岩舟線の早期完成を目指すとともに、完成後の交通状況も踏まえながら、現状を把握し、どういう対応ができるか、県と共に研究してまいります。

Q再質問 すぐにできる対応もあると考えますがいかがでしょうか。

A 交通量や渋滞状況をもとに、栃木県や交通管理者と協議・検討し、早期に対応できるものとして、信号処理の改善などが考えられます。

③市道2級152号線（安藤工場信号～東の産業道路まで）の安全対策

Q 朝のスクールゾーンを無視し侵入する車に対しての対応をお伺いします。

A 運転手が、スクールゾーンとわかる方法を検討してまいります。

④堀米駅東線の新設予定について

Q 堀米駅東口から産業道路までの延長820m、幅員16mの予定路線ですが実現が大変難しいと考えます。どのように対応されますか。

A 本路線の役割や費用対効果、市全域の道路ネットワークや優先度、財政状況等も踏まえて、慎重に検討して参りたいと考えています。

⑤県道佐野田沼線（東の産業道路：北中～吉水新田交差点）の自歩道対策

Q 自動車交通量が多く歩道を自転車走る現状に対し、一日も早い対応をお願いしますが実現性をお伺いいたします。

A 県も整備の必要性を理解しており、市も引き続き要望活動を行ってまいります。

⑥市道犬伏41号線の安全対策について

Q 鷲宮神社の外堀に構築されているガードパイプが取り外される事件が起きました。安全のための早期解決を望みますが対応をお伺いいたします。

A 警察に通報し、現場検証を行いました。問題解決に多くの時間が必要です。一部法面が崩れている箇所について早急に修繕工事を実施して参ります。



⑦Q 鷲川（こどもの国～カワチ薬品まで約1km）の整備計画をお伺いします。

A 大雨時に冠水被害が発生しており、今年度測量と実施設計を行い、改修工事に着手します。一部区間で河川に近接して家屋が建ち法面の危険を考え家屋の反対側に法線を変更しました。今年度は上流部の整備を図り、その後、たちばな幼稚園入り口の市道から水道山入り口の市道まで順次進めて参ります。

2. 女性の就労を支える『こどもクラブ』の充実について

Q 小学校に上がった子どもが、放課後を安心して過ごせる場の確保は、女性の就労を支える上で、大変重要な課題です。こどもクラブについてお伺いします。

①Q 城北小、天明小の高学年の入所への対処方法をお伺いします。

A 齋川一彦こども福祉部長 城北小は学校敷地の一部に隣接する民有地を買収し、今後の需要を考慮して2クラブ分の施設を建設してまいります。

天明小学校は学校の敷地内に建設することで協議が整い、今後の需要を考慮して3クラブ分を予定しています。

②Q 今後の予定をお伺いします。

A 城北小は今年度、測量、用地取得、実施設計、31年度工事、32年度開所。

天明小は今議会に測量、実施設計等の費用を補正予算に上程中ですが、31年度工事、32年度開所することを予定しています。

3. 女性の就労を支える保育園『新設する民間堀米保育園』について

Q 佐野市では保育事業の拡充を目指し、市営から民営へと一部シフトを図り、第一弾として堀米保育園の民営化が計画されました。

事業計画が提示され、事業主体に社会福祉法人とちのみ会「とちのみ学園」が選定されました。保育園は子どもの人間形成にとって極めて重要な時期にその生活時間の大半を過ごす場であり、大切な役割を担います。

①新設される堀米保育園のコンセプトと保育方針をお伺いします。

A とちのみ会は、「公立保育園の民間移管第1号」という当事者となる責任を重く受け止め、堀米保育園の歴史の上に、社会福祉法人とちのみ会の理念を融合させていく計画です。具体的には、法人設立理念である、「共生」と「地域支援」をベースに、トータルサポートという、必要とするすべての人に支援をと言うコンセプトにより、園の運営が図られるところです。

保育の面では、国の定める保育方針を遵守するのはもちろんのこと、障がいの有無や年齢を問わず、一人一人の発達と個性や特性に応じた健やかな育ちを支援する保育を実施し、弱者を思いやる感性や人権意識を幼児期から育むことに努める方針を掲げています。